

和木小学校コミュニティスクールだより

緑の風



令和8年・1月号

ホーム <http://www.sky.icn-tv.ne.jp/~wakisho/> E-mail wakisyo@sky.icn-tv.ne.jp

「他律」から「自律」へ

校長 福江大幸

新しい年が始まりました。今年もどうぞよろしくお願ひします。

さて、私事で恐縮ですが、私の1年は箱根駅伝と共に始まります。予選を勝ち抜いたチームの選手たちが、東京一箱根往復10区間約200kmを走ります。第102回となる今年(2026年)は21チームが出場、青山学院大学が優勝しました。私が感動したのは5区を走った黒田朝日選手です。トップの中央大学と3分24秒差、2位の早稲田大学と2分12秒差の5位で、黒田選手は小田原中継所を飛び出しました。ところが約1時間後、黒田選手は両腕を広げながら芦ノ湖のフィニッシュテープを切り、2位の早稲田大には18秒差、3位の中央大とは1分36秒差をつけていました。1年間のスケジュールを自分で考え抜き、メンタルもフィジカルもベストな状態にもっていくということは並大抵のことではないと思います。



実は2022年の優勝、そのときは、9区の時点で2位との差が4分以上もあり、もう優勝は確実でした。9区、10区の選手は無理をせず安全策をとり、余裕のピクニックラン……と、誰もが思ったことでしょう。ところがこの二人は積極的に攻め続け、区間賞どころか区間新記録を打ち立てたのです。原監督はこう言っています。「本来なら守りの走りに入ってもおかしくないのに、学生自ら攻めの走りをしてくれた。自律するチームになったと思います。」

青山学院大学の陸上部では「自律」ということを大切にしています。学生たちは、目標は何で、今自分に足りないものは何なのか、それを、監督に教わるのではなく、彼ら一人ひとりが考えたり、話し合ったりしながら練習を続けているそうです。人任せにするのではなく、自分で考える習慣がついているからこそ、本番でも自分で自分の体調を把握し、レースをデザインし、それを実現していくことができるのだと思います。彼らはメディアの取材に対しても自分の言葉で素直に答えます。それもやはり日頃から自分の考えをもっているからできるのでしょうか。

本校がめざしている「表現力と積極性」も、中学校以降大切となってくるこの「自律」へつながっていきます。4月のお子さんと比べてください。自分で考え、判断し、責任ある行動をとれるようになったでしょうか。体調や感情や時間を自分でコントロールできるようになったでしょうか。3学期は1年間の集大成の時期です。引き続き学校・家庭・地域が一体となって、「自律」へつながるよう取り組んでいきましょう。

和木小コミスクひろば



12月15日(月)～19日(金)、「めざせ！あいさつマスター」を実施しました。これは、7月の『あいさつ熟議』を活かし、運営委員会、生活委員会の6年生が企画運営した、あいさつ運動です。「自分からあいさつする人を増やす」ことを目的にした運動で、何より子どもたちから生じた取組であることがすばらしく、感激しました。

まさに「和木PRIDE」です。

